

# 光和の現場ニーズに応え新製品を開発

Absen社のハイエンドLEDディスプレイJupiterシリーズ「JP5 V2」は、メインユーザーである映像・音響機器レンタル大手・光和が、製品開発に大きく関わっている。前型機である「JP9」および「JP900K2」のブラッシュアップからスタートした両社の交流は、屋内利用に特化した設置の利便性と高い機動性をどこまで追求、積み上げたノウハウのすべてが凝縮された「JP5 V2」開発へとつながった。

◆光和所有の70%近くをLEDへと移行。光和は占めるAbsen製品 7100平方メートルのLEDを叶えてもらってきている」と語る。

◆「JP9」からは、人弱のうち、レンタル部門のテクニカルスタッフの半分近くを占める。光和が所有するLEDディスプレイのうち、Absen社の各種展示会など幅広くシェアを持つが、中でもよく知られているのは、レンタル本部テクニカルセクター第2オペレーション部長の井上順平氏(後ろ側が透けて見えるディスプレイ)であり、重量や画面面でも要望をクリアしていた。同時に、この時点から井上氏の「ニーズ」がAbsenの開発部隊に届くようになる。

「例えば、パネルの外枠を斜めにカットすることで、よりシームレスで自由度の高い配置を実現してもらっている。これによって、全体を円形につなげることができるようになり、柱型設置などにより多彩な演出が可能となった」(井上氏)。



1月の光和内覧会でAbsen Japanが展示した「JP5 V2」

光和の「ニーズ」

## Absen 高性能 LED「JP5 V2」 レンタル運用に機能を最適化 高精細で透過率70%実現

より、高精細を担保しながら透過率70%を実現。業界最軽量クラスの1キヤビネットあたり5・9キログラムという「1人で、片手でも持てる」サイズ感で設置・配置の作業を軽減しつつ、広い視野角により演出面が高い自由度を持たせることが可能な、屋内スペース向けLEDディスプレイとしては最高峰の製品だ。

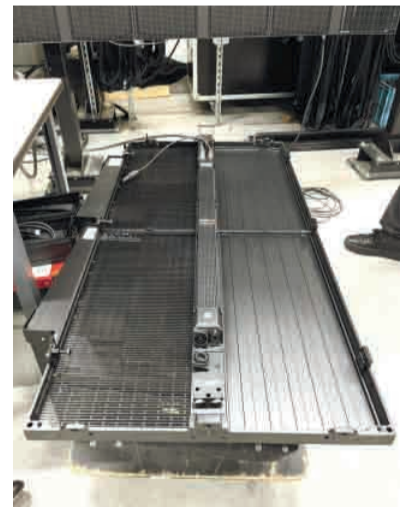
井上氏がAbsenの現地工場(中国)に乗り込んで調整したという細かな「こだわり」は、徹底して「現場目線」のニーズだ。

例えば「モジュール交換の簡便性」。従来、モジュールはキャビネットに多くのネジで止められ、修理の際には故障箇所を取り外せるようになっており、修理が必要な場合、キャビネットごとメーカーに提出する必要があった。この接続に磁石を活用することで、ネジを4本にまで減少させ、修理の際には故障箇所を取り外せるようになり、人気が高まった。



木村氏(左)と井上氏(右)、中央は「JP5 V2」を持つAbsen Japanの高須誠一(中)副社長

◆Absenの「真摯な対応力」  
光和がAbsen製品を選んだ理由は、「ユーザーニーズに対する真摯な対応」が最も大きい。光和取締役レンタル本部営業部長の木村浩氏は「日本にサービスマンを含めた対応力が高い。これは、他のメーカーと一線を画すレベル」と説明する。



「JP5 V2」。右側部分はシャッターパネルを装着



「JP5 V2」を説明する井上氏

リーナターに帯同しており、設置も含めて効率的に運用できるように「なった」と話す。演出上、透過を抑える目的で背面につけるシャッターパネルは、素材を厳選することで大きく軽量化(60%程度)されたほか、接続部を工夫することで付け外しが極めて簡単になった。「スタッフの女性比率が高まっていることも含め、軽くて取り回しが楽な点は助かることが多い。従来は2人がかりでやっていた作業が1人でできるようになれば、その分、作業効率は倍になる」(井上氏)としている。

◆「JP5 V2」は、日本の、Absen Japanは、レンタル市場向け新製品を中心とした「レンタル製品内覧会」を6月3、4日に同社ショールームで開く。世界初披露となる屋外型3.9ミピッチの超軽量LED「Aetherシリーズ AE3.9S」をはじめ、超軽量・高画質を特長とする新製品「Jupiterシリーズ JP5 V2」や、各種LEDディスプレイ製品の実機を展示する。実際の映像表現や構造、運用性を確認できる機会となる。

◆「JP5 V2」は、日本の、Absenは、日本に

◆「JP5 V2」は、日本の、Absenは、日本に

◆「JP5 V2」は、日本の、Absenは、日本に

◆「JP5 V2」は、日本の、Absenは、日本に



# 超軽量で設置作業の負担軽減

◆「JP5 V2」は、日本の、Absenは、日本に